

# クレヨンの失敗

ジェニー・ハリス

(ほんとうにあった話をもとに書かれました)

「こんにちは、バレリー！」ルーシーは言いました。ルーシーは体育館の中を、友達のところへ走って行きます。ルーシーとバレリーは、ママたちが教会で集まっている間、一緒に遊ぶのです。

ルーシーがクレヨンを見つけました。ピンク色を手に取ります。けれど、絵をかく紙はどこにもありません。そこで、ルーシーは椅子の上にピンク色の線を引きました。金属の上にかいた線はとてもきれいでした。ルーシーはバレリーを見てクスクスとわらいました。

バレリーはむらさき色を選びました。バレリーは別の椅子に、くねくねと曲がった形をかきました。ルーシーとバレリーは両方の椅子を、色あざやかな線でうめつくしました。

やがてママがやって来て、そのらくがきを見ました。「ルーシー！」ママは言いました。「お絵かきは紙にするものだって知っているでしょう！」

ルーシーはうつむきます。クレヨンでかいていいのは紙だけだということを、ルーシーは知っていました。でも、かき始めたら、なんとなく……わすれてしまったのです。

ルーシーは椅子に目をやりました。数週間前、ルーシーの家族は教会のそうじのお手伝いをしました。イエス様の家をきれいにするのは好きでした。今日はよごしてしまい、申しわけない気持ちでした。「さあ、二人とも。きれいにしましょうね」とママが言いました。ママがペーパータオルを持って来ました。ぬれていて、せっけんがついています。

バレリーとルーシーは、クレヨンでかいた線をこすりました。少しずつ取れていきます。

「すごく大変。」ルーシーがぶつぶつと言いました。

ママがルーシーの背中をポンポンとたたきます。「そうね。でも大丈夫、できるよ！」

みんなで一緒に椅子をこすりました。やがて、金属はすっかりピカピカになりました。

ルーシーはきれいな椅子を見てにっこりしました。よごしてしまったことは、申しわけなく思っていました。けれど、きちんときれいにすることができたのが、ルーシーはうれしかったのです。●